

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【有田振興局】 宮原共選組合でみかんの栽培研修会を開催

令和5年1月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～「植美」の現地適応性確認～	
2. 女性農業者交流会を開催	
3. 種しょうがの貯蔵確認	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3-4</b>
1. ちぢみほうれんそう収穫イベントを開催 ～紀の川市鞆渕地区～	
2. 岩出市農業士会研修会が開催されました	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5-6</b>
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～「匠の技 伝道師」による富有柿せん定研修会～	
2. 令和4年度伊都地方農業士連絡協議会「鳥獣害対策研修会」の開催	
3. 小中学校で地元農産物を使った加工体験（みそづくり、こんにゃくづくり） を実施	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>7-8</b>
1. うめ「南高」せん定講習会を開催	
2. 温州みかん「外観選別装置」見学会の開催	
3. 有田郡市内の小中学生を対象とした「有田みかんのある絵」表彰式を開催	
4. 宮原共選組合でみかんの栽培研修会を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>9-10</b>
1. 令和4年度日高地方青年農業者会議を開催	
2. 第35回地域農業を考える日高のつどいを開催	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>11-12</b>
1. 第28回 SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いを開催	
2. 自然薯栽培実証試験収穫調査を実施	
3. 川添緑茶研究会が新春初もみ会を開催	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>13</b>
1. 古座川町平井のゆずほ場を巡回	
<b>VIII 農林大学校</b>	<b>14</b>
1. 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会	
<b>IX 農林大学校就農支援センター</b>	<b>15</b>
1. 紀南地域で産地研修を実施	

# I 海草振興局

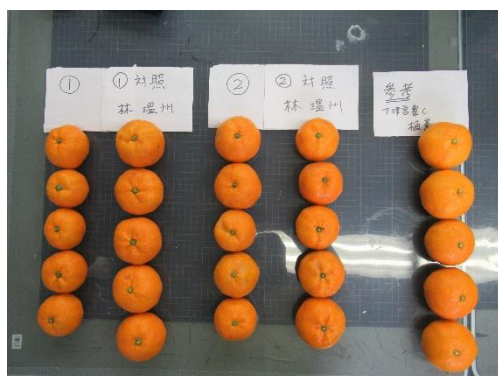
## 1. 重点プロジェクト〔次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト〕 ～「植美」の現地適応性確認～

地球温暖化にともなう気候変動はみかん作りへも影響を及ぼし、着色遅れや浮き皮現象など果実品質低下が見られるようになってきている。この問題を解消するために浮き皮軽減剤の散布を始め様々な対策がとられている。

農業水産振興課では、その対応としてJAながみねと連携し、海南市下津町で新品種「植美」の貯蔵性や品質の検討を行っている。「植美」は、現在下津町内で0.5haの栽培があり、既存の「林温州」と較べて浮き皮程度が軽微な特徴から、農家は貯蔵みかんとしての有用性に関心を寄せている。その適応性の確認のため下津町内の4園地で栽培した「植美」を12月中旬に収穫、木箱に入れて翌年2月中旬まで土蔵で貯蔵し、この間の果実品質や貯蔵性について調査し、貯蔵庫の環境についても把握することとした。

12月14日、各園地の果実を収穫し、6項目（果径、果実重、着色程度、浮き皮程度、糖、酸）について調査した。同様の調査を収穫から30日おきに行う。調査では非破壊分析器（クボタフルーツセレクターK-BA800）を用い同一果実での糖、酸の追跡を行っている。このことによりリアルな果実変化の把握が行えるだけでなく、供試果実が少なくすむメリットがある。また、貯蔵庫については貯蔵庫内外に自記温度計を設置し、1時間おきに温度記録している。

令和4年産の適応性については確認途中であるが、「林温州」と較べて浮き皮が軽微な傾向が見られる。今後結果を取りまとめ、産地拡大に向けた判断材料として生産者部会等で開示していく。



「植美」と「林温州」の比較



糖、酸の調査

## 2. 女性農業者交流会を開催

1月31日、和歌山市西田井の渡辺農園(株)のいちごハウスにて、当課主催による女性農業者交流会を開催し、3名の女性農業者が参加した。

最初に渡辺農園(株)の渡邊亮子氏から経営内容やいちご栽培の取組について話を伺

い、その後の意見交換では、雇用する際の難しさやいちごの出荷調整方法などについて渡邊氏を含めて和気あいあいと話し合いが行われた。また、完熟の程度を教わりながら新鮮ないちごの収穫と試食を楽しんだ。

今回、参加者と渡邊氏が、いちご栽培だけに限らず経営の工夫や苦勞、日々の営農の情報交換を行うなど農業者間の繋がりができていた。

これからも農業者間の繋がりが広がるような取組を行っていく。



意見交換



いちご狩り

### 3. 種しょうがの貯蔵確認

和歌山市内の種しょうが生産については、和歌山市種生姜生産促進協議会〔会員：和歌山市、JAわかやま（以下、JA）、JAグループ和歌山農業振興センター、和歌山県（振興局農業水産振興課、農業試験場、果樹園芸課、経営支援課）〕において生産拡大に取り組んでおり、R4年産は8名の生産者が栽培に取り組んだ。

4月下旬から5月上旬に植え付けし、11月下旬に収穫した種しょうがは、4月の出荷まで貯蔵する。

1月18日、JA北野菜予冷施設にて、JA及び当課の担当者で、この貯蔵中の種しょうがについて、腐敗していないか、芽が出てきていないかなどの品質調査を行った。各園地10箱ずつ、無作為に抽出し、箱を空けて中身を確認した結果、腐敗や芽が出ている物は無かった。4月に新しょうが生産者へ出荷するまで、貯蔵管理を行っていく。



品質調査



貯蔵中の種しょうが

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. ちぢみほうれんそう収穫イベントを開催 ～紀の川市鞆渚地区～

1月14日、ともぶち地域活性化実行委員会（会長：井中啓泰氏）は紀の川市鞆渚地区でちぢみほうれんそう収穫イベントを開催し、県内外から15組（36名）の参加があった。

ちぢみほうれんそうは、霜にあてることで糖度10度以上にもなる鞆渚地区名産の甘いほうれんそうである。今作は昨年秋の天候が良かったため、例年の倍の大きさに成長した。

参加者は葉がバラバラにならないよう、地中部分からハサミで茎を切り取り、スタッフに指導してもらいながら袋詰めを行った。リピーターの男性は「鞆渚のちぢみほうれんそうはシュウ酸がないので食べやすく、とにかく甘い。豚肉と一緒にしゃぶしゃぶで食べるのが一番おいしい」と話していた。

袋詰めを終えた参加者は女性スタッフから黒豆ぜんざいの振る舞いを受けた。小豆の代わりに鞆渚産の黒豆が使われている他、つきたての餅が入っており、非常に食べ応えのあるぜんざいであった。

また、7組の参加者がオプションで用意されていたこんにゃく作りを体験した。こんにゃくを固めるために使用する灰汁は黒豆の鞘を燃やして作ったものであり、随所に鞆渚らしさを感じられた。スタッフ曰く、刺身こんにゃくにして食べるのがおすすめとのこと。

農業水産振興課では、今後ともともぶち地域活性化実行委員会の活動を支援していく。



ちぢみほうれんそう収穫の様子



こんにゃく作りの様子

### 2. 岩出市農業士会研修会が開催されました

1月24日、農業士の資質向上と会員相互の連携を密にするとともに、地域農業のリーダーとしての活動や農業後継者の育成指導に取り組んでいる岩出市農業士会（会長：神下勝好氏、会員15名）は、県暖地園芸センターで研修会を開催した。

はじめに暖地園芸センターの上山所長から、県下9つある試験場の中でその誕生した経緯、並びに近年のスマート農業への取り組みや辛くないシントウなど、研究の概要について説明があり、播磨育種部長の案内で、エンドウやスターチスの品種試験の

ハウス、最近できたスマート農業の試験をするハウスなどを見学した。

参加者からは「ハウスの建設費用はどれくらい掛ったか」「重油が高騰している中でどのくらいの温度設定で加温しているか」などの質問が出された。

当課では、農業士会に対し今後も会員の要望を取り入れながら運営を指導していく。



研修会の様子

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～「匠の技 伝道師」による富有せん定研修会～

九度山町の中谷裕一氏は、富有柿の高糖度栽培における卓越した技術を持っており、令和3年度に和歌山県知事から「匠の技 伝道師」に認定された。

1月18日、九度山町のかき園において、中谷氏の優れた技術を紹介するため、農業水産振興課主催による研修会を開催し、農家15名が参加した。

中谷氏から、「先ず、主枝の先端を決める」、「主枝、垂主枝、側枝の配置は、二等辺三角形にする」、「側枝等の剪除に迷ったら剪除する」等実演を交えながら丁寧な説明があった。

また、中谷氏の指導のもと、2名の参加農家がせん定の実習を行った。

参加者から、剪定の基本はもとより一歩進んだことが聞け、大変勉強になったという声があった。



かき園での講義



せん定実習

#### 2. 令和4年度伊都地方農業士連絡協議会「鳥獣害対策研修会」の開催

1月26日、伊都振興局において、伊都地方農業士連絡協議会（会長：辻 重光 氏）が鳥獣害対策研修会を開催し、会員および関係者16名が出席した。

近年、野生鳥獣の被害が増加している中、当地域では特にイノシシ、シカの被害が大きく、これらの対策を進めるため、株式会社 野生鳥獣対策連携センター 兵庫事業部（兵庫県丹波市）森口弥沙氏を講師に招いた。

参加者は、日頃なかなか聞くことの出来ない貴重な情報に聞き入り、質疑応答の際にはシカの餌付けのエサには何が良いか。音やピンクテープによるシカの忌避効果はどうかなど、実際に現場で行っている取組について活発な意見交換を行った。

当課では、今後も関係機関と連携して農業士会活動の支援を行っていくとともに、今回の研修会を契機により一層の対策を推進し、鳥獣被害の軽減につなげていきたい。





開会挨拶(社会長)



講演(森口氏)

### 3. 小中学校で地元農産物を使った加工体験 (みそづくり、こんにやくづくり)を実施

当課では、昔から地域で作られている農産加工品を後世に伝承し、地産地消教育につなげるため、小中学校で加工体験を実施している。

1月24日～26日、橋本市立橋本小学校で4、5年生83名を対象にみそづくり体験を実施した。

橋本市生活研究グループ連絡協議会(会長:栗林照代氏)の会員が講師を務め、みその種類や材料について説明し、麹菌の種付けから樽への仕込みまでの実習を行った。

1月27日、かつらぎ町立妙寺中学校で3年生59名を対象にこんにやくづくり体験を実施した。かつらぎ町生活研究グループ連絡協議会(会長:小西教子氏)の会員が講師を務め、こんにやくの作り方や美味しい食べ方などを説明したあと、ミキサーにかけたこんにやく芋と炭酸ナトリウムを混ぜ、成型したこんにやくを茹でる実習を行った。

生徒からは、「今年度は調理実習ができなかったもので、このような体験ができて楽しかった」などの感想があがった。

当課では今後も生活研究グループと連携して、小中学生を対象とした加工体験や一般消費者への伝承活動等食育活動に取り組んでいく。



みそづくり体験  
(橋本市立橋本小学校)



こんにやくづくり体験  
(かつらぎ町立妙寺中学校)

## IV 有田振興局

### 1. うめ「南高」せん定講習会を開催

1月18日、JAありだウメ部会（部会長：西建一氏）が、有田川町金屋のウメ園で、今年からカットバックと摘心処理を開始する樹、及び両処理を行って3年目の樹のせん定講習を行い、部会員及びJAありだ営農指導員22名の参加があった。

城村普及指導員が講師を務め、ポイントとして、これからカットバック処理を行う樹は樹高が4m以上あり、一度に切り下げるのではなく2～3年かけて目標の樹高にすることを説明し、春季のバリカンによる摘心処理が容易にできるよう亜主枝などから発生している結果枝を長さが均一になるように切り揃えた。

また、既に摘心処理を行っている樹は、強い新梢を間引き、果実が着生した時に混み合わないよう結果枝を間引くなどのせん定を行った。また、下垂した側枝は果実肥大が劣るため、それらを間引くせん定を行った。

既に摘心処理を行っている樹は今年で3回目のせん定講習会であり、年々結果枝が多くなっている。また、収量も令和4年産で処理前の約1.5倍と増収している。カットバックと摘心を組み合わせた栽培方法に興味をもつ農家も多く、実践する農家も数名あることからせん定講習会の成果が見えてきたと感じられた。

当農業水産振興課では今後もJAありだと連携して、うめの生産安定につながる摘心技術の導入推進に向けて普及活動に取り組んでいく。



うめ「南高」せん定講習会

### 2. 温州みかん「外観選別装置」見学会の開催

1月20日、有田ネット21（会長：佐崎利幸氏）会員5名が、有田市宮原町で開催されていた温州みかん「外観選別装置Rakuda」の見学会に参加した。雑賀技研より装置の説明を受け、実際にみかんが荒選果されていく様子を見学した。

会員らは興味津々で質問が多く、「値段はいくらか？」、「家庭選別が楽になる」、「装置が高価でも選別が安定するのであれば価値がある」等の意見があった。



温州みかん「外観選別装置」の見学

### 3. 有田郡市内の小学生を対象とした「有田みかんのある絵」表彰式を開催

日本農業遺産に認定された「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」を保全・推進している有田みかん地域農業遺産推進協議会(会長：森田耕司氏)では、有田郡市内に在住・通学している児童を対象に「有田みかんのある絵」を募集してきた。

冬休み明けに募集を締め切り、関係者らによる審査において最優秀賞、優秀賞が決定した。応募点数は、1・2年生の部2点、3・4年生の部7点、5・6年生の部6点の合計15点ではあったものの、どの作品も力作で有田みかんをうまく表現されていた。

表彰式は、令和5年1月28日、有田川町地域交流センターにおいて執り行い、森田会長から3つの部の最優秀賞受賞者に賞状と副賞が授与された。



授賞式と受賞者及び受賞作品

### 4. 宮原共選組合でみかんの栽培研修会を開催

当課では、宮原共選組合員の基礎的な技術を学ぶ機会が少なかった兼業農家の女性農業者や定年帰農者を対象として、1年間を通じた研修会を開催している。

1月29日、宮原共選選果場事務室において研修会を開催し、8名の出席があった。

今回の課題は「農業経営」で、昨年出荷した果実の品質評価票から課題を読み解くとともに、その対策を反映させた作業計画や果樹経営の特徴を理解した経営計画の立て方について研修した。その後、制度資金の活用方法について解説した。

次回は「カンキツの新品種」について試食を含めて研修する予定である。



経営計画の策定を研修

## V 日高振興局

### 1. 令和4年度日高地方青年農業者会議を開催

1月24日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：岡有輝氏）、日高振興局農林水産振興部が主催、日高地方農業改良普及推進協議会の後援による本会議を印南町公民館においてクラブ員、審査員、関係者計25名が参集し3年ぶりに開催した。本会議は4Hクラブ員が「日高地方の農業、農村生活環境の改善を目指して、青年農業者が直面する問題の解決方法や展開方向を研究討議し、新しい農業及び農村づくりに役立てること」を目的として、行っているプロジェクト活動の成果を発表する場となっており、御坊市4Hクラブ連絡協議会、印南町4Hクラブ、みなべ梅郷クラブの各クラブから3名が出場し、発表を行った。

審査については普及指導協力委員をはじめとする7名の審査員により厳正に行われ、その結果、最優秀賞には印南町4Hクラブの中村優基氏が選ばれた。課題名は「印南の農業ひろめ隊」～SNS発信による挑戦は続く～で、印南町の魅力的な農産物や4Hクラブの活動を町内外の人々にもっと知ってもらいたいとの思いで、令和2年度からYouTubeを中心としたSNSによる情報発信を始め、その後の挑戦について発表した。

今回発表を行った3名は、2月9日に行われる和歌山県青年農業者会議でも発表を行う。農業水産振興課では引き続き4Hクラブ員のプロジェクト活動を支援していく。



表彰式



発表者3人

### 2. 第35回地域農業を考える日高のつどいを開催

1月31日、地域農業を考える日高のつどい実行委員会（会長：後藤明子氏）（農業士会、生活研究グループ、4Hクラブで構成）は、由良町中央公民館において「第35回地域農業を考える日高のつどい」を3年ぶりに開催し、農業者、地元選出県議会議員、県市町関係者等約90名が出席した。

第1部は株式会社アグリナジカン代表取締役山下丈太氏が、「若い力で農業を元気に～援農活動の取組～」と題して講演を行った。山下氏は京都府相楽郡和東町の出身で、

一次産業における人手不足や若者の生き方の多様化などから、2019年11月に「農業で働くを応援する」をコンセプトに、人材紹介等を行う株式会社アグリナジカンを設立したこと、活動を行う中でみなべ町のうめ農家との関りが深くなったことから、2020年5月にみなべ町清川に移住したこと、みなべ町では、援農希望者に一定期間うめ農家で研修を行った後、農家へ派遣する取り組みを行っていること等の話があった。

第2部のパネルディスカッションでは、日高管内の各市町で活躍している地域おこし協力隊の現役、OB、OGの4名から、「地域おこし協力隊が感じた日高の魅力」を語ってもらった。日高地域の景色が素晴らしいこと、農産物がおいしいこと、開発されすぎない自然があること、また何気ない田園風景など、地元住民では気付かない魅力などについて話し合われた。また、農業者から「こちらに移住してカルチャーショックを受けたことは何か」という質問があり、人との距離が近いこと、車がなければどこへも行けないこと、時間の感覚が違うことなどと答えがあった。

日高の農業、農村の活性化に資するため、伝統の「日高のつどい」を今後とも続けて行きたい。



開会式



パネルディスカッション

## 1. 第28回 SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いを開催

SUN・燦（さんさん）紀南農業者の集いは、西牟婁地方の農業者が組織・年齢・生産部門などの枠を越えて、地域の課題や農業農村の今後について検討・交流し、地域農業の発展、地域の活性化につなげることを目的に、農業士会・生活研究グループ・4Hクラブで構成する実行委員会が開催している。

コロナ禍で、3年ぶりとなる今回は「見つめ直そう 我が家の経営」をテーマとして、1月18日に県情報交流センタービッグユードで開催され、3団体の会員と関係者併せて約50名が出席した。

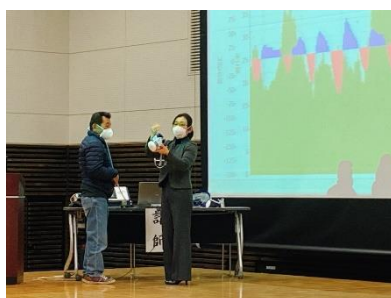
県よろず支援拠点コーディネーターの野際義久氏から「成り行き経営からの脱却」、同じく二之段直哉氏から「人手不足対応・多種多様な人材採用」と題して、3年後や5年後の計画を作成し見える化することで、自分自身だけでなく、家族や従業員と目標達成に向けた意識統一ができることや、雇用者が働きやすい環境づくりの配慮により、ロコミでの新たな人材確保につながること等の説明があった。

また、株式会社重松製作所営業本部企画室長の安藤眞理氏の「農薬用マスクや保護具に関する基礎知識」についての講演では、参加者にサンプルが配布され、付け方の実演や機材を使った空気漏れのテストにより、作業に適したマスクを正しく付けることの重要性を実感した。

研修会終了後には、希望者に3種類のアシストスーツの装着と荷物運びの体験会を実施した。参加者からは、「コロナ禍で心配したが、久しぶりに集いが開催されて良かった」という意見があり、農業水産振興課では今後も地域農業の課題に対応した研修会の開催を支援していく。



講演会 [県よろず支援拠点、(株)重松製作所]



アシストスーツの体験

## 2. 自然薯栽培実証試験収穫調査を実施

西牟婁地方の山間部では、かつて自然薯栽培が盛んであったが、近年は高齢化等により減少している。当課では川添緑茶研究会（会長：上村誠氏）と連携し、茶と労力競合しない複合経営品目として栽培実証に取り組んでいる。

真砂土を詰めた専用塩化ビニールパイプを埋設して畝を立て、一年生種芋150本を令

和4年3月16日に植付け、11月17日～1月20日に収穫した40本について、長さ、重さ、奇形（分岐芋、曲がり芋）の有無を調査した。

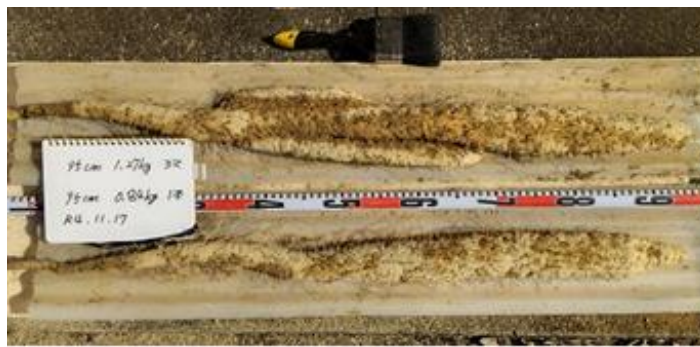
その結果、平均重量は970gで、奇形のない上物の割合は62.5%となった。

上物のうち、中～大ぶりの芋は贈答向けに、小ぶりの芋や分岐芋等はカットし自家消費向けとして、地元の直売所2店舗で販売した。販売単価は3,000円/kgとし、カット芋は1袋1,000円（300g）前後にすると購入してもらいやすい傾向であった。

当課では、今後とも同研究会と連携し、自然薯の安定生産技術の確立に向け、栽培方法の現地実証を継続していく。



生育状況（9月14日）



収量調査（11月17日）

### 3. 川添緑茶研究会が新春初もみ会を開催

1月21日、川添緑茶研究会が、JA紀南市鹿野製茶工場で、手もみ製茶技術の伝承と研鑽を目的に初もみ会を開催し、会員や行政関係者10人が参加した。

現在の機械製茶でも、手もみ製茶技術の習得により、各工程での品質管理に活用し、煎茶の品質向上につなげている。

昨年、収穫後に蒸して冷凍保存した一番茶を使用し、焙炉（ほいろ）と呼ばれる製茶台に会員と関係者が分かれて作業を始め、3年ぶりの開催となる初もみ会で意見交換しながら手順を確認していた。また、関係者は上村会長から手ほどきを受け、柔らかくも力強い手の動きと長時間に及ぶ手もみ作業に悪戦苦闘しながら、約5時間かけてもみあげた。

コロナ禍以前は、お茶を楽しむ興味をもってもらえるよう、消費者を対象に手もみ体験やお茶会を開催しており、当課では活動再開に向け支援していく。



手もみ作業する会員



手ほどきを受ける関係者

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 古座川町平井のゆずほ場を巡回

1月16日、古座川町平井地区のゆず生産者の栽培技術向上のため、農事組合法人 古座川ゆず平井の里に出荷している生産者と農業水産振興課員は、ゆずほ場3ヶ所の生育状況を確認し、栽培方法や病虫害防除方法について話し合った。

確認したうちの2ヶ所のほ場では、今年の収量が少なく、一部に葉の黄化や落葉が見られ、老木化や根詰まり等による樹勢低下と考えられたため、当課橋本普及指導員から、施肥と土壌改良について指導した。

また、カンキツ幹腐病（枝幹部に局所的に発生し、樹皮や木質部まで腐りこんですり鉢状、または溝状にくぼむ病気で、東牟婁地方のような降水量が多い地域で発生しやすい。）の発生も見られたため、防除対策も指導した。

当課では今後もゆずの安定生産に向けた指導を行う。



ゆずの生育状況を確認



## VIII 農林大学校

### 1. 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会

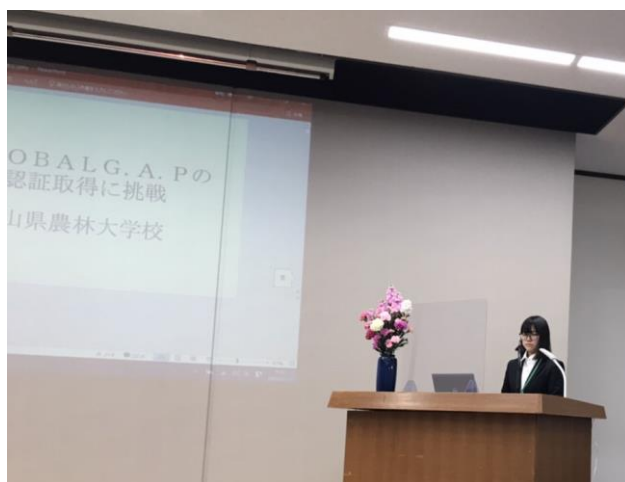
1月17、18日、兵庫県の加西市民会館で東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会が開催され、本校からは2名の学生が出席した。

本発表会は、日頃の学習成果を交換し、農業への意欲を高めるとともに、相互に研鑽を積むことを目的として開催されており、プロジェクト学習において研究した内容や学生生活を通じて日頃考えていることや思い等について意見を発表する場であり、3年ぶりに発表者が集まったの開催となった。

初日は研究及び意見発表が行われ、研究発表の部では、本校から2年生果樹コースの談儀舞波さんが課題名「柿のGLOBAL G. A. Pの継続認証取得に挑戦」で発表、また意見発表の部では、1年生の倉園侑人さんが課題名「食品ロス削減へ」で発表を行った。また、2日目は神戸市北区にある「弓削牧場」を現地視察し、各校の学生間で交流を深めた。

発表された内容について審査が行われ、研究発表では上位3名、意見発表では上位2名が全国会で発表することとなっている。残念ながら本校から発表した2名は全国発表会に選出されなかったが、それぞれ自分たちが取り組んだ内容や意見を堂々と発表した。

農林大学校では、今後全国大会に出場できるよう指導を行っていく。



発表の様子

## IX 農林大学校就農支援センター

### 1. 紀南地域で産地研修を実施

1月26日、就農支援センターの研修生が県内の農業者を訪ねて栽培状況を見学し、経営について学ぶ産地研修を、日高、西牟婁両振興局の協力を得て実施した。

日高管内では、まず御坊市でガーベラ、スターチスの大規模経営を営む芝本貴史氏を訪問、経営概要等について話を聞くとともに「栽培品目や地域によってやるべきことは決まっている、やるべき時にやるべき事をやったら普通に儲かるので、手を抜かずにやること」との言葉をいただいた。

みなべ町ではうすいえんどう新品種「光丸うすい」（昨年3月に品種登録、主要品種「きしゅううすい」より節間が短く草丈が低い）を試作されている前田信治氏を訪問、新品種の特徴やうめとうすいえんどうの複合経営等について話を聞いた。

西牟婁管内では、秋津野直売所「きてら」で木村則夫氏（農業法人株式会社きてら代表取締役専務）から直売所設立の経緯と事業内容について説明を受けるとともに、併設されている柑橘の香油抽出プラント、更に近隣の晩柑類のほ場等を見学した。木村氏からは「色々な人とのネットワークを作って仕事をしてほしい」「時代と共に進んでいく農家になってほしい」との言葉をいただいた。

今回出席した研修生は研修修了を間近に控えており、色々と視野を広げるとともに就農に向けてよい刺激となった。



芝本氏のガーベラほ場  
(ハウス周年栽培)



前田氏のうすいえんどうほ場  
(ハウス促成栽培)



木村氏（中央）から説明を受ける  
(秋津野直売所「きてら」)

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489